

令和5年度
第2回 苫小牧市航空機騒音対策協議会
会議録

令和5年9月14日（木）

午後6時30分

JFEリサイクルプラザ苫小牧 2階会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 副市長挨拶

4 議 題

(1) 報告事項

ア 米軍再編に係る千歳基地への訓練移転について

- ① 「千歳基地における米軍再編に係る訓練移転」に関する主な経過について 【資料 1-1】
- ② 千歳基地における米軍再編に係る訓練移転（共同訓練）について 【資料 1-2】
- ③ 令和5年8月29日開催の「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会」
での要請・質問事項及び回答について 【資料 1-3】
- ④ 米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地への訓練移転について 【資料 1-4】
- ⑤ 令和5年9月4日開催の「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会」
での要請事項及び回答について 【資料 1-5】
- ⑥ 米軍再編に係る千歳基地への訓練移転対応について 【資料 1-6】
- ⑦ 米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に伴う騒音測定地点について 【資料 1-7】
- ⑧ 米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について 【資料 1-8】

イ 米軍再編に伴う米軍機訓練移転について

- ① 米軍再編に係る航空機訓練移転について 【資料 2-1】
- ② 米軍再編に係る各基地への訓練移転及び中止について 【資料 2-2】
- ③ 沖縄県の負担軽減調査結果について 【資料 2-3】

5 その他

○ 協議会委員 ※敬称略

出席者 (19名)

会 長	丹羽 秀則	委 員	千葉 英明	委 員	工藤 幾子
副会長	松重 茂雄	〃	越川 慶一	〃	星野 岳夫
〃	三海 幸彦	〃	小倉 巖	〃	竹田 秀泰
委 員	丹治 秀一	〃	久保 智揮	〃	松井 良明
〃	丹治 秀寛	〃	永谷 俊文	〃	牧田 俊之
〃	齋藤 謙吉	〃	山端 豊城		米谷 一夫
〃	多田 嘉弘	〃			

欠席者 (3名)

委 員	丹治 有貴	委 員	大槻 昌一	委 員	荒木 孝司
-----	-------	-----	-------	-----	-------

○ 事務局 出席者 (13名)

副市長		木村 淳			
総合政策部	部長	町田 雅人	環境衛生部	部長	石黒 幸人
〃	参与	柴田 健太郎	〃	次長	鈴木 正毅
空港政策課	課長	伊藤 貴文	環境保全課	課長	櫻井 理博
〃	主査	新谷 昌洋	〃	課長補佐	齋藤 和之
〃	〃	仲林 はつみ	〃	技師	田中 惠実香
〃	〃	木村 賀津彦	〃	〃	田村 侑也

令和5年度 第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会 会議録

1 開会

◇事務局

皆様、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、只今から令和5年度第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会を開会いたします。

私は、事務局を担当しております苫小牧市空港政策課長の伊藤でございます。

よろしく願いいたします。

2 会長挨拶

◇事務局

それでは、協議会開催に先立ちまして、会長から一言、ご挨拶をいただきます。

よろしく願いいたします。

◆会長

皆様、お晩でございます。

雨の中、大変ご苦勞様でございます。

今日のご案内のとおり、米軍再編対策、千歳基地の訓練ということでございまして、コロナで少し、書面でのご理解をとということがありました。

5類にコロナが移行してからですね、今日初めての会合でございます。

思えばですね、この米軍再編対策、沖縄の負担軽減ということで、始まった訳でございますが、現地の話を間接的に聞きしますと、訓練は他に少しずつ移って行っても、次々と外国航空機が来るというようなことも聞いております。

しかしながらですね、ご存知のように、昨今の、このロシアの侵攻とか、或いは台湾環境の危機問題、色々報道をされております。

したがって、国も非常に財源をそちらの方にシフトしていると聞いております。

そういう中で、沖縄の位置関係が非常に重要なところにあるのだということも、認識しておるわけでございます。

思えばですね、この再編対策、最初から私、携わっている訳でありますけれども、当時の副市長と、12月だったかな、寒い中、11月か。

米軍のF-16、15、これが来るのを滑走路上で待っている。もう寒くて寒くてね、非常に凍えたことを覚えております。

マスコミも非常に沢山いて注目されておりました。

それには、やはり秩序が乱れるのではないか、約束したことが守れないのではないかと、こういうような危惧がございました。

しかしながら、以後十数年経ちますけれども、それなりに大きな問題は起きていないということでございまして、だんだんと説明会に出る出席者も少なくなってまいりました。

大変、その約束を守っていただけるということにはありがたいこととございます。

そういう意味で、今日は久しぶりのこの会合でございますので、色々と事務局、長くお話があると思っておりますけれども、十分にご審議の程、お願いいたします。

よろしくお願いいたします。

◇事務局

会長、ありがとうございました。

続きまして、木村副市長からご挨拶を申し上げます。

3 副市長挨拶

◇副市長

皆様どうもお晩でございます。副市長の木村でございます。

本日はお仕事が終わって、お疲れのところ、また急な招集にも関わらず、こうして皆様にお集りいただきまして、誠にありがとうございます。

協議会の皆様におかれましては、新千歳空港や千歳飛行場を巡る様々な課題に対しまして、常日頃から、特段なるご協力をいただいておりますことを、この場をお借りし、改めて、感謝を申し上げる次第でございます。

さて、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転につきましては、去る8月29日、及び9月4日に北海道防衛局におきまして、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会が開催され、千歳基地では、2年ぶりとなる訓練移転の通知がありましたので、本協議会におきましてご説明をいたしたくお集まりをいただいた次第でございます。

なお、この連絡協議会におきましては、北海道、千歳市、苫小牧市から協定等の順守や訓練の安全管理などについて、要請を行ってきたところでございます。

また、訓練の概要や市の対応等につきましては、航路下地域であります植苗・美沢地区、沼ノ端地区、勇払地区にチラシを全戸配布し、皆様に周知する予定となっております。

今後におきましても、安全・安心に万全を期すため、市の体制を整えるなど、皆様の不安をできるだけ払拭できるよう、最大限の努力をしてみたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

本日はよろしくお願いいたします。

◇事務局

この後につきましては、座って説明をさせていただきます。

初めに、前回は出席が叶わず、皆様とは今回が初めての顔合わせとなります、沼ノ端北栄町内会の工藤委員が出席されておりますので、一言お願いいたします。

◆A委員

沼ノ端北栄町内会、工藤です。

これから皆さんと勉強をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◇事務局

ありがとうございました。

次に事務連絡といたしまして、丹治有貴委員、大槻委員、荒木委員の3名から、本日所用のため欠席との連絡を受けております。

次に資料の確認でございますが、資料1-1から資料2-3を事前に配布させていただいております。本日ご持参いただいていない方はお知らせ願います。

皆様、大丈夫でしょうか。

ありがとうございます。

ここで1つ訂正がございます。

委員の皆様方にお配りしております座席表でございますが、その上に、令和5年度第1回と書かれていると思うのですが、すみません。第2回と訂正をさせていただきます。お詫びして訂正をいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、会長が議長として、進めていただきます。

なお、議事録作成の関係上、発言に際しましては、マイクのご使用をお願いいたします。また、マイク使用後はスイッチをお切りくださいますようお願いいたします。

それでは会長よろしくお願いいたします。

4 議題

◆会長

早速ですが、議事に入らせていただきます。

まず、報告事項につきましては、資料1-1から3までをひと区切り1-4から5をひと区切り、1-6から8までをひと区切りと3つに分けて、このアの議題を上程したいと思っております。

3つずつに分けて、それぞれ質疑応答していただきたいと、こう思っております。

よろしいでしょうか。

◆委員一同

(「はい。」という声あり)

◆会長

早速、(1)の報告事項でアの資料、1-1から1-3までの説明をお願いいたします。

◇事務局

報告事項のア「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転」につきまして、ご説明いたします。座って説明をさせていただきます。

1ページの資料1-1をご覧ください。

こちらは、「千歳基地における米軍再編に係る訓練移転」に関する主な経過について記載しております。

内容につきましては、この後の資料でご説明いたします。

次に、2ページの資料1-2をご覧ください。

こちらは、本年8月29日、北海道防衛局におきまして、「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会」が開催され、「9月下旬から10月上旬の期間に訓練を実施する方向で、日米間で調整中」との概略通知が示されております。

次に、3ページの資料1-3をご覧ください。

こちらは、北海道・千歳市・苫小牧市の3者で構成しております「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡会議」としての要請及び本市の個別要請と質問に対する北海道防衛局の回答でございますが、順にご説明させていただきます。

はじめに、連絡会議としての要請につきましては、8点ございます。

1つ目が「土曜日・日曜日・祝日及び早朝・深夜の訓練を実施しないことなど、これまでの両市との協議経過を踏まえ、協定の内容を確実に遵守すること。また、米軍帰還に際しても、土曜日・日曜日・祝日及び早朝・深夜に飛行することのないよう配慮すること。」

2つ目が「自衛隊が通常使用している訓練空域や飛行経路、飛行方法によること。」

こちらは、まとめた回答となっておりますが、「千歳基地における訓練の実施に当たり、土日・祝日及び早朝・深夜における訓練はもとより、訓練空域、飛行経路及び飛行方法などについても、航空自衛隊と同様の態様となります。また、協定についても、平成19年1月に、千歳市及び苫小牧市と締結した「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する協定書」の内容を遵守するとともに、これまでの関係自治体との協議・確認事項を踏まえ、訓練移転を実施してまいります。また、米軍帰還の際の土日・祝日及び早朝・深夜の飛行につきましても、地元で配慮するよう、米側に求めてまいります。」との回答でございます。

3つ目、「米軍人の外出時等の対応など本道滞在中における規律の維持に万全の対応を行うこと。」につきましては、「米軍人の本道滞在中における北海道防衛局の対応については、前回と同様、必要に応じてサポートを行い、トラブルの未然防止に努めてまいります。」

規律の維持についても、防衛省として平素から米側に対して、隊員の教育や綱紀粛正の徹底を図る等、様々なレベルから申し入れを行っており、改めて当局からも米軍に申し入れを行ってまいります。」との回答でございます。

4つ目、「訓練期間中は、貴局において騒音測定を実施するとともに、できる限り早期に結果を公表すること。」につきましては、「訓練期間中における騒音測定については、これまでと同様に実施し、騒音測定結果についても、速やかに公表したいと考えています。」との回答でございます。

続きまして、4ページをご覧ください。

5つ目、「訓練の安全管理及び参加する戦闘機の整備・点検など安全確保に万全を期すこと。」につきましては、「航空機の運用に当たっては、安全の確保が大前提であり、航空機による事故は地域の方々に不安を与える、あってはならないものであると認識しています。当局としては、訓練部隊に対し、航空機の点検・整備の確実な実施や安全管理に万全を期すよう求めてまいります。」との回答でございます。

6つ目、「説明会や米軍ブリーフィング等の開催など、訓練に関する情報を住民、自治体、報道機関に詳細に提供すること。」につきましては、「当局としては、地元の皆様への情報提供については、大変重要と認識していることから、米軍によるブリーフィングの開催を求めているところです。また、当局としても説明会の開催を予定しているところです。関係自治体等への情報提供については、引き続きお知らせできる情報が得られ次第、迅速かつ確実な情報提供に努めてまいります。」との回答でございます。

7つ目、「訓練終了後の「検証」を必ず行うこと。」につきましては、「訓練終了後における訓練の状況及び騒音測定結果に係る「検証」については、これまでと同様、可能な限り対応してまいりたいと考えています。」との回答でございます。

最後に8つ目、「これまで実施された訓練移転によって、沖縄の負担がどの程度軽減されたのか、期限を決めて目に見える形で検証すること。」につきましては、「米軍再編に係る訓練移転は、嘉手納飛行場における航空機による訓練だけでなく、三沢及び岩国飛行場の航空機が嘉手納飛行場に飛来して実施している訓練も移転の対象としており、嘉手納飛行場における更なる騒音軽減に資するものです。国内・国外の訓練移転を積み重ねることにより、嘉手納飛行場の周辺住民の方々のご負担を軽減できるものと考えています。他方、嘉手納飛行場の運用の全てを把握しているわけではなく、航空機訓練移転による負担軽減の効果を定量的にお示しすることは困難であることを御理解願います。」との回答でございます。

以上が、連絡会議としての要請に対する回答となります。

続きまして、5ページをご覧ください。

苫小牧市の個別要請といたしまして、2点ございます。

1つ目、「沖縄の負担軽減について、米軍外来機における飛来訓練等の抑制など、沖縄県の方々が負担軽減を実感できるように努めること。」につきましては、「日米両国は、

航空機の訓練移転を行う期間中、沖縄の飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとしており、防衛省としても、訓練移転の都度、米側に対し配慮要請を行っています。その上で、嘉手納飛行場に所属する航空機の訓練移転について、本年2月に実施された訓練移転では、F-15戦闘機12機等が、約3週間沖縄を離れることになりました。その間、訓練移転がなければ、沖縄で実施されることとなる訓練の時間を含めた米軍機の運用全体が削減されたとの効果があったものと考えています。また、嘉手納飛行場の騒音実態の把握に継続的に努めており、実態を踏まえて、米軍に対し、騒音規制措置の遵守や、地元の重要な行事に配慮するよう申入れを行い、さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る各種施策を通じて、周辺住民の方々のご負担を可能な限り軽減できるよう努めるなどの措置を講じているところです。いずれにしましても、防衛省としては、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場における騒音の軽減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、可能な限り地元の負担軽減に努めてまいります。」との回答でございます。

2つ目、「千歳基地では、航空機からの部品落下が繰り返し発生していることから、米軍機を含む機体の整備、点検の強化を図るとともに、事故が発生した場合は、原因究明及び再発防止策について速やかに情報提供を行うこと。」につきましては、はじめに自衛隊についてでございますが、「航空機による事故等により、基地周辺住民の方々には不安を与えることがあってはならないのは当然です。防衛省・自衛隊としては、機体の整備について、飛行前後の点検のみならず、千歳基地、補給処等において定期的な整備の点検を行い、飛行安全及び品質管理の上で重要な構成品については、定期的に交換を行う等、機体の安全性を確保する上で必要な措置を講じています。」

6ページに続きまして、「さらに、隊員の教育においては、パイロットの安全教育に万全を期すことはもとより、整備員についても、安全教育や飛行前後の機体の整備点検等を通じ、安全確保に関する指導を行っています。防衛省・自衛隊としましては、地域に与える影響を最小限に留めるよう、引き続き自衛隊機の安全管理の徹底を行い、部品紛失・事故等の防止に引き続き万全を期してまいり所存です。また、万一、事故等が発生した場合には、これまでと同様、地元自治体等への情報提供について、適切に対応してまいります。」との回答でございます。

次に、米軍についてでございますが、「米軍機の飛行に際しては、安全の確保が大前提であり、引き続き米側に対し、安全面に最大限の配慮を払うとともに、地域住民に与える影響を最小限にとどめるよう求めていく考えです。なお、千歳基地での訓練移転において米軍戦闘機や輸送機の事故が発生した場合には、その原因及び今後の対応について情報が得られ次第、苫小牧市を含む関係自治体に迅速かつ確実に情報提供を行うなど、適切に対応してまいります。」との回答でございます。

以上が、苫小牧市の個別要請でございます。

最後に、苫小牧市の質問としまして、「これまでは、訓練の3週間前に概略通知、1週

間前に詳細通知をいただいておりますが、今回は早い段階で概略通知をいただいております。本市としては、市民への情報提供が早期に実施できるため、大変有難く受け止めておりますが、今後においても早期に通知をいただけるのか、お伺いいたします。」につきましては、「予断をもって回答することは困難ですが、引き続き早期の情報提供に努めるよう日米間で調整してまいります。」との回答でございます。

以上が、8月29日の連絡協議会における、要請及び質問事項に対する回答でございます。

資料1-1から1-3までの説明は以上でございます。

◆会長

1から3まで、報告事項の説明がありあました。

皆さんからご質問、ご意見をお受けしたいと思います。

どうぞ。いかがですか。

ご意見、ご質問がないようですが、次によろしいでしょうか。

◆委員一同

(「はい。」という声あり)

◆会長

続きまして、報告事項1-4と5のご説明をお願いします。

◇事務局

続きまして、7ページの資料1-4をご覧ください。

こちらは、9月4日に再度、連絡協議会が開催され、「米軍再編に係る三沢飛行場から千歳基地への訓練移転について」、詳細通知が示されております。

内容でございますが、

○訓練期間は、9月26日から10月4日

○参加部隊は、米軍が三沢基地の第35戦闘航空団及び嘉手納基地の第18航空団、航空自衛隊が千歳基地の第2航空団

○使用基地は、千歳基地

○訓練空域は、北海道西方空域及び三沢東方空域

○演練項目は、戦闘機戦闘訓練等

○参加規模はタイプIIで、米軍はF-16が12機程度、早期警戒管制機であるE-3Gが1機、人員が220名程度、航空自衛隊はF-15が8機程度

以上が訓練計画でございます。

なお、通知にはございませんが、航空自衛隊が通常実施している訓練と同様に、日没

後の訓練を、訓練期間中に最大4回実施する予定と伺っております。

次に、8ページの資料1-5をご覧ください。

こちらは、9月4日の連絡協議会における、連絡会議としての要請及び本市の個別要請に対する北海道防衛局からの回答でございますが、こちらも順にご説明させていただきます。

はじめに、連絡会議としての要請といたしまして、「連絡会議として、重ねてのお願いとなるが、協定の遵守、訓練情報の提供など、先日要請した8項目について、改めてお願いする。」につきましては「連絡会議から要請のありました8項目についての再度の要請につきましては、先般の連絡協議会において、お答えさせていただいたとおりですが、協定を遵守するとともに、航空機の安全確保及び米軍人の規律の維持について、改めて当局から米軍に申し入れを行うこと、米軍と調整し可能な限りの情報提供に努めるなど、これまでと同様、周辺住民の安心・安全のために最大限努力し、万全の体制で臨みたいと考えています。」との回答でございました。

次に、苫小牧市の個別要請といたしまして、3点ございます。

1つ目、「当市では毎年、訓練移転元である、嘉手納飛行場周辺の沖縄市、嘉手納町、北谷町に対し、負担軽減に関する調査を実施しているが、「外来機の飛来により負担軽減の実感がない」との声があるため、外来機の飛来抑制に対する具体的な対策を行うこと。」につきましては、「日米両国は、航空機の訓練移転を行う期間中、沖縄の飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとしており、防衛省としても、訓練移転の都度、米側に対し配慮要請を行っております。その上で、嘉手納飛行場に所属する航空機の訓練移転について、本年2月に実施された訓練移転では、F-15戦闘機12機等が、約3週間沖縄を離れることになりました。その間、訓練移転がなければ、沖縄で実施されることとなる訓練の時間を含めた米軍機の運用全体が削減されたとの効果があったものと考えています。また、嘉手納飛行場の騒音実態の把握に継続的に努めており、実態を踏まえて、米軍に対し、騒音規制措置の遵守や、地元の重要な行事に配慮するよう申し入れを行い、さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る各種施策を通じて、周辺住民の方々の御負担を可能な限り軽減できるよう努めるなどの措置を講じているところです。」

9ページに続きまして、「いずれにしましても、防衛省としては、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場における騒音の軽減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、可能な限り地元の負担軽減に努めてまいります。」との回答でございます。

2つ目、「沖縄の負担軽減について、目に見える形での検証を要請しているが、その回答において、令和2年度までは一例として、騒音測定値や平均離着陸回数を比較した数字が示されていたが、前回からその回答がないため、具体的な数字を示すこと。」につきましては、「これまでに、嘉手納飛行場に所在する航空機の訓練移転については計49回、普天間飛行場に所在するオスプレイ等の訓練移転については計18回実施したところで

す。これらの訓練移転により、本来は沖縄で行われる訓練の一部が本土等に移転されたことで、沖縄における駐留及び訓練時間が削減されることから、一定程度の負担が軽減されていると考えています。防衛省としては、目に見える形での沖縄の負担軽減が図られるよう、今後も訓練移転を着実に積み重ねるなど、全力を挙げて取り組んでまいります。」との回答でございます。

最後に3つ目、「今回の訓練では、三沢基地所属のF-16が参加するが、令和3年1月30日に燃料タンク投棄事案が発生していることから、安全確保に最大限配慮するとともに、原因や今後の対策などについて、情報提供すること。」につきましては、「令和3年1月30日に発生した米空軍三沢飛行場所属F-16戦闘機による燃料タンク投棄について、米側からは、本事案は、油圧が急激に低下したことによるエンジン出力の低下によるものであり、エンジン及び全ての関連部品の点検・交換を行ったとの説明を受けております。いずれにしましても、航空機の運用に当たっては、安全の確保が大前提であり、航空機による事故は地域の方々に不安を与える、あってはならないものであると認識しています。当局としては、訓練部隊に対し、航空機の点検・整備の確実な実施や安全管理に万全を期すよう求めてまいります。」との回答でございました。

以上が、9月4日の連絡協議会における要請事項に対する回答でございます。

資料1-4から1-5までの説明は以上でございます。

◆会長

ありがとうございます。

資料のアの4と5が説明されました。連絡協議会への事項、或いは、苫小牧市の個別要請のことについての回答がなされておりました。

皆さんから、ご意見・ご質問がございましたら、お受けいたします。

いかがですか。

次に進んでよろしいでしょうか。

◆委員一同

(「はい。」という声あり)

◆会長

次に進ませていただきます。

それでは、次に続きまして、資料1-6から1-8につきまして、ご説明の程よろしくお願いいたします。

◇事務局

続きまして。10ページの資料1-6をご覧願います。

こちらは、皆様への周知や関係機関との協議及び連絡体制、騒音測定などの対応手順について、それぞれ訓練開始前、訓練期間中、訓練終了後に分けて記載しております。

なお、訓練開始前における、皆様への周知といたしましては、市ホームページや新聞の市役所だよりへの掲載のほか、航路下地域の周知チラシを全戸配布いたします。

内容につきましては、11ページに記載のとおりでございますが、訓練の概要や訓練情報、市の対応について掲載しており、植苗・美沢地区は9月20日から22日に、沼ノ端・勇払地区は9月22日に配布する予定となっております。

次に、12ページの資料1-7をご覧ください。

こちらは、訓練移転に伴う騒音測定地点でございますが、常時測定局は本市が6局、北海道が9局、北海道防衛局が1局、臨時測定地点は本市、北海道防衛局ともに3局で、合計22局で騒音測定を行う予定でございます。

なお、市の騒音測定結果の速報値につきましては、訓練実施の翌日に市ホームページで公表する予定でございます。

最後に、13ページから18ページの資料1-8をご覧ください。

こちらは米軍再編に係る各基地の訓練移転経過をまとめたものでございますので、ご参照を願います。

報告事項アの説明は以上でございますが、この度の訓練移転の実施にあたり、米軍ブリーフィング及び北海道防衛局による説明会が、9月25日に行われる予定となっております。

本来であれば、本協議会から3名程度ご参加いただいているところではございますが、会場の都合上、苫小牧側からの出席者が5名までと案内されておりますので、今回は、本協議会を代表して丹羽会長にご参加いただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いたします。

私からは以上でございます。

◆会長

報告事項1-6から8の説明を受けました。

皆さんからご意見・ご質問をお受けいたしますが、いかがでしょうか。

はい、B委員。

◆B委員

あえて、質問をさせていただきます。

11ページ、訓練は9月26日から10月4日なのですが、最初の先発の人たちは、いつから、撤収はいつまでやるのかと、あえて聞きます。

訓練空域、三沢はわかるのですが、この西方空域は積丹沖かと思うのですけれども、どこのルートを通過して来るのか。

続けて言います。

10ページ、訓練中の苫小牧の人員の対応、24時間なのか、訓練中なのか、北海道、人数は書かれていませんので、連絡くださいってどんな体制でやるのかと、お分かりになる範囲で結構でございます。

以上です。

◆会長

3点ほど、ご質問がございましたので、事務局、答えてください。

◇事務局

まず、1つ目ですが、先遣隊、本隊、それから到着とか撤収とか、いつになるのかというお話でございました。

米軍の先遣隊、本隊、支援物資の到着、それから撤収等につきましては、米軍の運用に関わることから、詳細な計画の公表はされておりませんが、北海道防衛局からは、公表可能な情報が得られた場合には、できるだけ速やかに関係自治体にお伝えすると伺っております。

その場合、私どもから皆様方に情報提供をしたいと思っております。

今回の訓練に係るF-16戦闘機の展開期間につきましては、訓練前日の9月25日から訓練終了の10月4日までの10日間となっております。概ね、これまでの訓練を見ますと、この期間の前後に先遣隊ですとか、或いは支援物資が到着して、訓練終了後は逐次、支援物資や後発体が撤収していく予定になると考えてございます。

2つ目でございます。

訓練空域の関係、北海道西方空域はどこのルート、空域を飛んで行くのかというお話がございました。

今回は北海道西方空域と三沢東方空域ということで、B委員がおっしゃっているように、北海道西方空域については積丹沖になります。

三沢東方空域については、襟裳岬の南側の空域になります。

北海道西方空域につきましては、通常、風向きにもよりますけれども、千歳基地を飛び立って、直接、山の方、樽前山の方に向かって、積丹の方に飛ぶルートになると思います。

補足ですけれども、三沢東方空域については、植苗・沼ノ端・勇払の上空を通過して南下をするルートになると思います。

3番目の苫小牧市の体制でございますけれども、訓練期間中、我々空港政策課の職員が毎日千歳基地に張り付いて、戦闘機の離陸、着陸の情報をキャッチするとともに、市の環境保全課においては、滑走路班と言いまして、滑走路に張り付いて、その訓練の様子を見て、その情報を市のホームページ等々で皆様にお知らせする体制をとっております。

すので、これは今までも変わりなく、やっていることですので、万全の体制で訓練に臨みたいと思っております。

以上でございます。

◆会長

B委員。

◆B委員

もう一度、しつこく聞きます。

何人でやるのかということ聞いたつもりなのです。

1人でやるのか、このうち、訓練中はどんな体制でやるのというところを聞いたと思うのです。張り付くのは良いのですけれども。

もう1つ、多分これは、言わないと思うのだけれども、先遣隊と最後のあれとはどんな人数でやるの、来るのと。要するに、基地から外出もするのではないのかと思ったから聞いたのです。

それは作戦上言えないと言え、それで仕方がないのですけれども。

やはり今回は、基地内に泊まる人と泊まらない人もるように聞いていますから。

それを伺った訳ですけれども、言えなければ言えなくて仕方がないです。

以上です。

◆会長

事務局、どうぞ。

◇事務局

体制の部分ですけれども、何人でということですが、我々、実働部隊、空港政策課は5名おりますし、環境保全課も内部では色々パソコンを扱うのもありますけれども、現地では3名体制で騒音測定を行う形をとっております。

米軍が何名でということでしたが、米軍は220名、今回来ることになります。

宿泊につきましては、基本的には千歳基地でも宿泊先の確保というのがなかなかできないということを聞いております。

今、我々が情報を得ているのは、半分の110名が千歳基地で宿泊をし、残りの110名につきましては、千歳基地以外の民間のホテルに宿泊する予定と伺っておりますけれども、具体的な場所については、米側の運用上、安全上の理由から公表はされていないところでございます。

◆会長

B委員、よろしいでしょうか。
それでは、もう一度どうぞ。

◆B委員

訓練移転だけこの5名、3名体制でやると。この訓練中はですね。
そのほか何か、飛行場ではなくて、例えば問題がある、今まではなかったのですけれども、外出して何かあった時の体制はどんな対応をしているのかと思って聞いたのです。
ご存知の通り、過去にはモダ石油のところで交通事故を起こした車があったことは事実だと思うのです。
そういうことの対応をどうされるのかと知っているのです。

◇事務局

基本的には、米軍にそういった、例えば、交通事故も過去にございましたけれども、そういった場合には北海道防衛局を中心に事故の対応にあたって、皆様方にも公表はもちろんです。

北海道防衛局からは、米軍人の外出制限はコロナも明けましたので、ないと聞いております。

ただ、勤務時間外の行動を規定します「リバティ制度」という制度が米軍にはあって、それに則って、その行動をすると伺ってございます。

このリバティ制度は何なのかということなのですが、例えば米兵の飲酒、外出を規制するもので、飲酒を禁止する時間帯については、午前1時から午前5時まで、19歳以下の隊員については、外出制限がありまして、午前1時から午前5時まで外出できないとなっているところでございます。

基地外に宿泊されている米軍の方の移動手段につきましては、宿泊施設と千歳基地の間は、主にレンタカーを使用すると伺ってございます。

以上でございます。

◆会長

B委員、どうですか。

◇事務局

補足します。

◆会長

補足があります。お待ちください。

◇事務局

総合政策部の柴田でございます。

市の対応としましては、今課長がお答えしましたけれども、原則、戦闘機が飛んでいる時間帯というのは、問い合わせが来る形になりますので、その時間はいる形になります。

飛ばないとしても、20時までは電話にも対応いたします。

市の対応ですけれども、何かあれば基本的には空港政策課、環境保全課が対応しますが、市長以下部長職、そして私達の連絡体制も作っておりますので、すぐ連絡が全員に回って、何かあればすぐ役所に集合する形になります。

外出等の対応については、基本的には千歳基地、千歳に外出する形になりますけれども、これまで通り北海道防衛局で現地連絡本部を作り、必要に応じて米軍の方が外出する時には、サポートに回る形となっております。

以上でございます。

◆会長

よろしいでしょうか。

B委員以外にご質問・ご意見ありましたらお受けいたしますが、よろしいでしょうか。

◆委員一同

(「はい。」という声あり)

◆会長

はいと声がございますので、次に進ませていただきます。よろしいですね。

次にイ、米軍再編に伴う米軍機訓練移転につきまして、これは1・2・3とご説明をお願いいたします。

事務局どうぞ。

◇事務局

空港政策課の仲林と申します。よろしくお願いたします。

座って説明させていただきます。

それでは、報告事項のイ「米軍再編に伴う米軍機訓練移転」について、ご説明いたします。

19ページの資料2-1をご覧ください。

こちらは、米軍再編に係る訓練移転先に、新たにアラスカを対象とすることが、本年7月27日の日米合同委員会において合意されたため、その内容が同日付で防衛省から通知されたものでございます。

追加された移転先につきましては、アラスカ州のアイルソン空軍基地、エレメンドルフ・リチャードソン統合基地、統合太平洋アラスカ演習施設とそれらの周辺区域であり、計画の具体的な内容については、日米間で調整の上、公表することとしております。

次に、20ページの資料2-2をご覧ください。

こちらは、岩国飛行場からアラスカへの訓練移転について、通知されたものでございます。

内容につきましては、本年8月8日から9月8日の期間で、岩国飛行場の部隊がアラスカ州のアイルソン空軍基地において、戦闘機戦闘訓練等を行うものであり、参加規模につきましては、F-35Bが13機程度、空中給油機であるKC-130Jが2機程度、人員270名程度となっております。

次に、21ページをご覧ください。

こちらは、只今ご説明した訓練移転につきまして、8月9日付けで、米軍の運用上の都合により、中止が通知されております。

次に、22ページの資料2-3をご覧ください。

こちらは、沖縄県の負担軽減調査結果で、嘉手納飛行場に隣接しております、沖縄市、嘉手納町、北谷町から回答を得たものでございます。

照会項目(2)の「令和4年度の訓練移転実施により、負担が軽減されたと考えるか」との質問に対する主な回答につきましては、沖縄市からは「騒音苦情の平均件数が3割ほど減少したものの、外来機の飛来などがあつた場合は増加する傾向にあり、訓練移転による負担軽減がなかなか実感できない」、嘉手納町からは「環境基準超過日数は減少が見られるものの、訓練移転の期間中は、Lden値及び騒音発生回数の平均値が増加しており、依然として大きな負担を強いられている」、北谷町からは「比較的騒音が発生しやすいF-22戦闘機などが、暫定配備として各基地から嘉手納基地へ飛来しているため、環境基準超過日数や騒音発生回数も増加しており、騒音被害は軽減されていない」との回答がございました。

また、23ページには、各自自治体の代表的な観測地点における年度別、月別の騒音観測回数とW値の数値データ及びグラフを、24ページには、嘉手納飛行場における外来機の離着陸等状況を掲載しております。

私からは以上でございます。

◆会長

イの米軍再編に伴う米軍訓練移転について、1から2、3をご説明いただきました。皆さんからこのことにつきまして、ご意見・ご質問をお受けいたします。

B委員。

◆B委員

また、あえて質問でございます。

2-1についてですけれども、これは千歳基地というか我々の上空、沖縄の軽減にはあれだけども、千歳基地に関係はあるのでしょうか。

ここに休むところはあるのですか。アラスカまで行くのに。

この飛行機は、F-35というのは初めてですよ。

航空祭では出てきたかもしれませんが、通常ステルスですよ、この飛行機。

今回は中止になったようですよ。

これをここに付けた意味が、アラスカでやってきたのは分かりますけれども、沖縄の軽減負担のためにこれを付けたのでしょうか。

ちょっとお訊ねしたいのです。

◆会長

事務局、分かる範囲でどうぞ。

◇事務局

この米軍再編に係る、こういった報告につきましては、毎回、グアムの訓練でしたり、国内の訓練もそうですけれども、米軍再編に係る資料につきましては、この協議会で毎回出させていただいている資料でございます。

平成23年にグアムが追加されましたが、それに続いて今回アラスカが追加されたということで、皆様にご報告を差し上げているのと、岩国飛行場へのアラスカへの訓練移転、これは中止になりましたが、こういった国内・国外の訓練移転に関する資料については、今までもこの協議会でお示しし、ご説明させていただいているところございますので、そういう意味で、今回付けさせていただいているところでございます。

以上でございます。

◆会長

どうですか、B委員。

色々あるでしょうけれども。

◆B委員

分かりました。

ただですね、去年までは書面開催でしたから、やりませんでした。

私のところに説明を来たからあれなのですけれども。

今度、この訓練移転にオスプレイも参加するということですよ。

そうなんです、なっているのです。去年のあれで。

オスプレイが共同訓練に参加する場合は、お金も高いというか、交付金が高いのですけれども、書面でやっているものですから、こういう説明はないのです。

前回の時、私が言って、次回までと言って、私のところには説明に来たのですけれども、皆さんのところには、分からないかもしれない。

変更があるのです、防衛省の。このオスプレイを日米共同訓練に参加させるという、これは何年でしたか。つい最近、改訂されているのです。

千歳にもいずれ、オスプレイもこの日米共同訓練に参加するのだなと思って、私はいるのですけれども。

今、情報提供をしていたということだから、今、あえて、そういうふうに皆さんに言いました。

以上です。

◆会長

この回答はよろしいですね。

◆B委員

私は説明を受けたから。

◆会長

分かりました、そのほかに。

◇事務局

会長、ちょっと良いですか。

先ほどの訓練移転に関しましては、千歳基地に着陸する予定はされておられません。

もう1点、オスプレイの関係で、今までも千歳基地に飛来してきたことはございます。

また、戦闘機の訓練移転というのは、苫小牧市として受け入れ判断をして、受け入れている訓練でございます。

オスプレイに関しては、千歳基地を拠点をとって違う訓練空域で訓練をしているということで、一応、苫小牧市が受け入れている訓練というわけではなく、千歳基地を使用するので、こういう協議会にはかけないで終わった後に報告させていただいている形で、受け入れている訓練が別だということは、ご理解をいただければと思います。

◆会長

B委員。

◆B委員

私もそれは分かっているのです。

陸自だと思っていましたから、最初はですね。

これはいつですか。この資料をいただいたのは。

今日の資料にはついていないのです。

この再編訓練の中に、今度オスプレイをいれると、来ている資料があるのです。

だから今度の日米訓練に、この何かちょっと違うオスプレイと種類があるのですが、それは空自でやるということのをこれ、防衛省、変更になった資料を私のところに説明に課長が来てくれたのですけれども。

だから今度は、この日米訓練で、いずれは千歳でやるのだと思っているから言っている。

今、柴田さんの言ったあれは、島松の大演習場の陸自でやったのは分かっています。

それで陸自の訓練だということも僕らは認識していました。

その時、たまたま千歳の第2航空団に降りたのも、分かっています。

そうではなくて、今度の再編訓練の中にこれが入るといふ防衛省からの訓練のこれが来ているということのを言ったまでです。

いつ、千歳でやるかどうかは分かりませんが、以上でございます。

◆会長

この回答は。

◆B委員

いや、いいです。

◆会長

分かりました、回答はよろしいということで。そういう情報もあるということで、ご理解ください。あとはよろしいでしょうか。

ご意見があればお伺いします。

どうぞ。いいですか。これで、一通り、説明は終わりです。

報告事項は全部終わりましたが、よろしいですね。

これで一応締めをして、よろしいですか。

(「はい。」という声あり)

次は事務局にバトンタッチをいたします。

◇事務局

副市長から結びのご挨拶がございます。

5 副市長挨拶

◇副市長

本日は、米軍再編に係る千歳基地への訓練移転などにつきまして、ご協議をいただきまして、誠にありがとうございました。

再来週の火曜日、26日から2年ぶりに訓練移転が始まりますが、皆様の安全・安心を第一にマニュアルに沿った対応をしていくとともに、私自身も騒音測定局に足を運びまして、訓練の様子を直接確認をしたいと考えております。

また、航路下地域の皆様の不安をできるだけ払拭できるように、北海道防衛局とも連携を図りながら、訓練の準備から、米軍の撤収までしっかりと対応してまいりたいと考えております。

最後になりますが、委員の皆様には、これまでも大変なご負担をおかけしてきたところでありましても、今後とも引き続きご理解・ご協力を心からお願い申し上げます、挨拶させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

6 閉会

◆会長

これをもちまして、令和5年度第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会を終わらせていただきます。

9月25日は、何時からまだ分かってないのだな。

◇事務局

16時からです。

◆会長

16時からブリーフィングがあるということで、色々お話を聞き、今後、約束事項もしっかり守っていただき、大過なく過ごすことをお願いいたします。

ご苦労様でした。